

2014 年度（対象年度：2013） 自己点検・評価シート【大学全体の視点】

基準3	教員・教員組織
-----	---------

I. 自己点検・評価

1. 点検・評価項目等に基づく状況確認 《評価形式》

自己評価欄に「A：適切に実行している」「B：概ね実行している」「C：あまり実行していない」「D：実行していない」の4段階で記入してください。

項目 No.	評価項目	点検項目	自己評価	
			個別	総合
301	求める教員像及び教員組織の編制方針は設定されているか。	①教員に求める能力・資質等は明確ですか。	B	A
		②教育理念・目的を実現できる教員組織を編制していますか。	A	
		③教員の組織的な連携体制を築いていますか。	A	
302	学部・研究科等のカリキュラムに相応しい教員組織を整備していますか。	④授業科目と担当教員の適合性を判断する仕組みを整備していますか。【※どのように】	A	A
303	教員の募集・採用・昇格等は適切に行われていますか。	⑤教員人事関連規程が整備され、適切な手続きによる運用がなされていますか。	B	B

2. 現状説明 《記述形式》

対象年度における取り組みを、点検・評価項目の観点から、改善状況を含め総括してわかりやすく説明してください。点検項目欄【※どのように】と記載のある項目は、取り組み内容を具体的に、記述してください。

- ①「就業規則」「教育職員選考基準」や各学部の教員人事に関する規程において、教職員の義務、各職位の教員の能力や資質を示しているが十分ではない。
- ②教員採用にあたり、「主たる担当科目」のカリキュラム上の必要性や、教員がどのような役割を果たすのかを明確にした上で、これに適した教育・研究業績があるかどうかを審査して採用し、各学部の「教育理念・目的」や「教育課程編成・実施の方針」の実現を目指した教員組織を編成している。しかし、各学部・研究科の教員組織の編制方針については、明文化していない。
- ③専攻科目、教養教育科目いずれの担当教員も各学部にも所属し、教授会の構成員となることで、学部全体の組織的な連携体制を築いている。また、学部間の連携や全学的な教務に関する案件については、「教学運営規程」にもとづき、「全学教学会議」「教務会議」「各学舎教務会議・教養教育科目会議」などの会議を必要に応じて開催して連携している。
- ④教員採用にあたり、専攻科目担当の教員採用は各学部教授会に、学部共通コースの教員採用は当該のコース運営委員会に、教養教育科目担当の教員採用は、当該学舎の教養教育科目運営委員会に対して学長が意見聴取を求め、その結果にもとづいて授業科目と担当教員の適合性を学部長会で審議し、判断する仕組みを整備している。
- ⑤教員人事関連規程としては「教育職員選考基準」および各学部が定める教員人事規程が整備されており、それらに基づき、教員の募集・採用・昇格等が行われている。採用手続きの適切性については、学部長会が合意プロセスの中でその都度点検しており、昇格については、「教育職員選考基準」第10条第2項に基づき、各学部教授会で発議し、『龍大月報』によって全学の専任教員に推薦依頼を公示している。しかし、教員の業績評価については、「教員人事に関わる選考基準の目安」を明文化している国際文化学部を除けば、教員人事に際して教員の各種業績を評価する目安が設けられていない。また、教員募集においては、公募を行うか否について多少不明瞭な部分がある。

〔改善すべき点の確認〕 前回の点検・評価で、自ら「改善すべき点」と掲げた事項や、評価結果で「改善すべき点（〔改善勧告〕〔努力課題〕〔留意点〕）」とされた事項があれば、この欄に箇条書きで記載してください。 （自ら「改善すべき点」と掲げた事項） ・求める教員像については、必ずしも明確ではない。現状を踏まえ、学部長会等の機関で定める方向で議論を開始する。 （評価結果） ・各学部に分属する教養教育科目を主たる担当としている教員や、諸課程を担当する教員などについては、各学部で昇任基準（特に年限）に大きな差異がないか引き続き確認していただきたい。【留意点】 ・大学として求める教員像を明確に示していただきたい。【留意点】

3. 効果が上がっている点とその伸長方策 《箇条書き》

現状説明を踏まえ、効果が上がっている事項（特色ある取り組みや成果創出など）とその伸長方策を記述してください。 特になし

4. 改善すべき点とその改善方策 《箇条書き》

現状説明を踏まえ、改善すべき事項とその改善方策を記述してください。 ・求める教員像の明確化については、未だ議論を開始していない。現状を踏まえ、学部長会等の機関で定める方向で議論を開始する。

5. 根拠資料 《リスト形式》

項目 No.	根拠資料の名称
301	就業規則 第4条
301・302・303	教育職員選考基準
301	教学運営規程
301	教育課程運営委員会規程
302・303	教育職員選考基準に準拠しながら運用する補充人事フローチャート

II. 評価結果

総評 現状説明では本学の教員・教員組織に関する規定等が列挙されている。ただし、評価項目で要求されている水準を満たしていない状況もあるように思われる。 たとえば、認証評価では努力課題にはならなかったが、その総評で「教員人事に関わる選考基準の目安」を明文化している国際文化学部を除けば他学部に設けられていないことから教員人事の一層の透明化を図るためにも今後の検討が望まれる。」と指摘されている。この点については検討願いたい。 また、求める教員像の明確化について「学部長会等の機関で定める方向で議論を開始する」と記載されているが、昨年も同様の記載があった。上記選考基準の目安にも関連すると考えられることから早急に検討を開始願いたい。
伸長すべき点(長所) 《箇条書き》
改善すべき点 《箇条書き》 * 各項に〔改善勧告〕〔努力課題〕又は〔留意点〕を記載 「教員人事に関わる選考基準の目安」の明文化と求める教員像及び教員組織の編制方針の明確化に関する検討を開始すること。【努力課題】
※〔改善勧告〕〔努力課題〕は、改善計画書の提出が必要

Ⅲ. 大学基準協会からの助言について

助言内容

【認証評価結果 課題】

- 1) 各学部・研究科の教員組織の編制方針については、明文化されていないことから、明文化のうえ、教職員間で共有することが望まれる。
- 2) 「教員人事に関わる選考基準の目安」を明文化している国際文化学部を除けば、教員人事に際して教員の各種業績を評価する目安が設けられていないことから、教員人事のより一層の透明化を図るため、今後の検討が望まれる。
また、教員採用に際して公募を行うか否については多少不明瞭な部分が認められる。

2014 年度（対象年度：2013） 自己点検・評価シート【大学全体の視点】

基準 3	教員・教員組織
------	---------

I. 自己点検・評価

1. 点検・評価項目等に基づく状況確認 《評価形式》

自己評価欄に「A：適切に実行している」「B：概ね実行している」「C：あまり実行していない」「D：実行していない」の4段階で記入してください。

項目 No.	評価項目	点検項目	自己評価	
			個別	総合
304	教員の資質の向上を図るための方策を講じていますか。	①教員の資質の向上を図るための研修方策を効果的に実施し、資質向上に活かされていますか。【※どのように】	A	A

2. 現状説明 《記述形式》

対象年度における取り組みを、点検・評価項目の観点から、改善状況を含め総括してわかりやすく説明してください。点検項目欄【※どのように】と記載のある項目は、取り組み内容を具体的に、記述してください。
・新任教員に対して、本学の教育活動や研究活動等について理解してもらうため、4月に就任時研修を行い、本学の教育や研究活動等への理解を深め、7月には新任教員フォローアップ研修を行った。フォローアップ研修では大学教育をめぐる動向について大学教育開発センター長による講演のほか、教育活動を振り返っての感想や反省点等について新任教員間でディスカッションを行い、分野を超えた教員間の授業運営に関する課題の情報共有を図った。 その他、私立大学連盟が主催する新任教員向けのFD推進ワークショップへの参加を新任教員から募り、本学から1名派遣した。 ・全学的な研修として、大学設置基準に照らした適切なシラバスを作成してもらうため、シラバスに関する研修会を2回開催した。また、「シラバス作成の手引き」を大学教育開発センターにおいて作成し、大学教育開発センターホームページ上に公表している。 その他、人権にかかる研修や学生対応にかかる研修、ハラスメント研修等を行っている。 ・情報発信及び意見交換を目的としたFDサロン開催のほか、大学コンソーシアム京都と共催によるFDフォーラムを開催した。 上記研修方策が、教員の資質向上に活かされているかの検証方法としては、研修後の事後アンケートをもって確認している。アンケート内では今後開催を希望する研修内容についての設問も設置しており、次回研修内容を検討する材料にもなっている。
[改善すべき点の確認] 前回の点検・評価で、自ら「改善すべき点」と掲げた事項や、評価結果で「改善すべき点（【改善勧告】【努力課題】【留意点】）」とされた事項があれば、この欄に箇条書きで記載してください。
・教員研修の体系化と充実 ・本学独自研修に加えJPFF等の外部連携機関の提供する実践的研修プログラム等を活用し全学的な教員研修について体系化を図る。 ・大学教育開発センターからの高等教育・FDに関する情報発信の充実を図って頂きたい。【留意点】 ・教養教育と大学院については、FD活動が低調であるので、何らかの方策を講じていただきたい。【留意点】 ・FD活動に関する様々な取り組みが、教員の資質の向上に活かされているかを検証の上、教員研修の体系化と充実を図って頂きたい。【留意点】

3. 効果が上がっている点とその伸長方策 《箇条書き》

現状説明を踏まえ、効果が上がっている事項（特色ある取り組みや成果創出など）とその伸長方策を記述してください。
・FD サロンやFD 報告会を活用することにより、学部、研究科において個別に扱っていた課題について情報共有と連携を図ることが出来た。

4. 改善すべき点とその改善方策 《箇条書き》

現状説明を踏まえ、改善すべき事項とその改善方策を記述してください。
・教員研修（学内外）の体系化と充実 ・高等教育・FDに関する情報発信の工夫

5. 根拠資料 《リスト形式》

項目 No.	根拠資料の名称
304	2013 年度教育職員対象新任者就任時研修会プログラム
304	大学教育開発センター通信 2013-02 号
304	大学教育開発センター・教学企画部関連事業一覧(2013 年度第 1 回全学教学会議資料)
304	シラバス作成の手引き
304	大学認証評価に係る点検・評価報告書（一部抜粋）

II. 評価結果

総評
この評価項目は、FD や教育に関する研修のみを記述するのではなく、全学、教授会等さまざまな枠組みで実施されている研修を含めて、全学的な視点で記述していただきたい。また、全体的に記述が実施実態に留まっている。 FD 研修に関しては、新任教員に対し、就任時研修とフォローアップ研修を実施していることは評価できる。しかし、それがどのように資質向上に活かされているのか判断できない。「シラバス作成の手引き」を作成し、かつ研修会を開催していることも評価できるが、これについても資質向上という点については判断できない。 難しいと思うが、アンケート等の分析など、教員の資質向上を測る手法を開発するとともに、それらを検証の上、教員研修の体系化と充実を図ることが望ましい。
伸長すべき点(長所) 《箇条書き》
・新任教員に対し、就任時研修とフォローアップ研修を実施していることは評価できる。 ・「シラバス作成の手引き」を作成し、かつ研修会を開催していることは評価できる。
改善すべき点 《箇条書き》 ＊各項に【改善勧告】【努力課題】又は【留意点】を記載
・FD 活動に関する様々な取り組みが、教員の資質向上を測る手法を開発するとともに、それらを検証の上、教員研修の体系化と充実を図ることが望ましい。【留意点】
※【改善勧告】【努力課題】は、改善計画書の提出が必要

2014 年度（対象年度：2013） 自己点検・評価シート【大学全体の視点】

基準 3	教員・教員組織
------	---------

I. 自己点検・評価

1. 点検・評価項目等に基づく状況確認 《評定形式》

自己評価欄に「A：適切に実行している」「B：概ね実行している」「C：あまり実行していない」「D：実行していない」の4段階で記入してください。

項目 No.	評価項目	点検項目	自己評価	
			個別	総合
304	教員の資質向上を図るための方策を講じていますか。	①教員活動自己点検は、個人的かつ組織的に活用されていますか。【※どのように】	B	B
		②教員活動自己点検の制度実施の適切性について検証しましたか。【※どのように】	A	

2. 現状説明 《記述形式》

対象年度における取り組みを、点検・評価項目の観点から、改善状況を含め総括してわかりやすく説明してください。点検項目欄【※どのように】と記載のある項目は、取り組み内容を具体的に、記述してください。

① 全学的取り組みとして、2011 年度から毎年度、「教員活動自己点検」を全専任教員対象に実施している。本制度導入により、教員各自が自身の教育研究等の活動に対し自己点検を行う機会となり、自らの検証・確認により明らかになった諸課題に対し、改善に結びつけるための自己研鑽の場として活用している。また、教員個人の活用だけでなく、学部・研究科や学部横断的な組織（教養教育、学部共通コース）での活用も視野に入れ、運用している。

2013 年度においては、2012 年度教員活動自己点検の制度総括を行った（2013 年度第 6 回全学大学評価会議<2014 年 3 月 20 日開催>）。総括では、①教員活動自己点検システムの構築・運用開始に伴い、教員の負担減につながるるとともに、経年データを蓄積することが可能となり、より効率的な運用が可能となった。②教員個々が自らのデータを活用することにより、次年度における改善や伸長への取り組みにつながるサイクルが定着しつつある。③組織としては、自己点検・評価活動における活用事例や、教授会での回覧等を通して FD 活動へつながっている等の事例も確認できたことから、一定の効果が生まれているといえる。と評価した。

一方で、①最終的には対象となる全教員が期首・期末の入力を終えたが、期首に目標設定等を入力すべき事項を、点検・検証する期末に同時に入力する教員が一部に見られ、本来の制度趣旨にそぐわない利用例が散見された。②多くの組織において、このデータを十分活用できているとは言い難い状況にあり、「点検結果の活用に関するガイドライン」に則り、活用方策について検討を重ねることが必要である。といった点を課題としている。

なお、2013 年度教員活動自己点検の入力率は 95.8%となり（2012 年度は 100%）、全教員の入力完了には至らなかった。本学の内部質保証の方針に示しているとおり、本学の内部質保証システムは、「機関（組織）としての自己点検・評価」と本学の教育研究等を支える「教員個人の諸活動に対する自己点検」という 2 つの視点から構築しており、全教員が入力をする状況になれば、内部質保証の形骸化を招きかねない。2014 年度は期首入力段階から周知・徹底することを全学大学評価会議で確認している。

以上から、教員活動自己点検が概ね、個人的かつ組織的に活用されていると評価するが、継続課題に引き続き取り組んでいく必要がある。

② 上述のように制度総括を行い、検証している。なお、この制度総括は毎年度行い、必要な改善を行っていく。

〔改善すべき点の確認〕前回の点検・評価で、自ら「改善すべき点」と掲げた事項や、評価結果で「改善すべき点（【改善勧告】【努力課題】【留意点】）」とされた事項があれば、この欄に箇条書きで記載してください。

- ・自己点検・評価制度と教員活動自己点検との連関
- ・点検結果活用の促進支援

3. 効果が上がっている点とその伸長方策 《箇条書き》

現状説明を踏まえ、効果が上がっている事項（特色ある取り組みや成果創出など）とその伸長方策を記述してください。
・組織の自己点検・評価に活用する事例や、教授会での回覧等を通して FD 活動へ繋げる等の事例があり、一定の効果が始まっている。事例を各組織と共有することにより、意識の醸成と成果創出に繋げていく。

4. 改善すべき点とその改善方策 《箇条書き》

現状説明を踏まえ、改善すべき事項とその改善方策を記述してください。
・2013 年度は入力率が 100%に届かない結果となった。全教員が適切な時期に入力し、改善に結びつけられるよう、早い段階（期首入力中）からの周知・徹底を行う。

5. 根拠資料 《リスト形式》

項目 No.	根拠資料の名称
304	2012 年度 教員活動自己点検の総括について（2013 年度第 6 回全学大学評価会議承認）
304	教員活動自己点検 点検結果の活用に関するガイドライン
304	2013 年度 教員活動自己点検 入力状況（最終）

II. 評価結果

総評
教員活動自己点検について、組織の自己点検・評価に活用する事例や、教授会での回覧等を通して FD 活動へ繋げる等の事例があり、一定の活用効果が出始めていることは、評価できる。 ただし、入力率について、2013 年度の最終入力率が 95.8%で全員入力に至らなかったことも問題であるが、期首段階での入力率の徹底と活用方法・運用促進について学部・研究科・各組織と連携し、向上に向けた施策を検討願いたい。 また、本学の内部質保証システムは、「機関（組織）としての自己点検・評価」と本学の教育研究等を支える「教員個人の諸活動に対する自己点検」という 2 つの視点から構築しており、全教員が入力をする状況になれば、内部質保証の形骸化を招きかねないことについても、改めて周知すべきである。
伸長すべき点(長所) 《箇条書き》
組織の自己点検・評価に活用する事例や、教授会での回覧等を通して FD 活動へ繋げる等の事例があり、一定の活用効果が出始めていることは、評価できる。
改善すべき点 《箇条書き》 * 各項に【改善勧告】【努力課題】又は【留意点】を記載
・期首段階での入力率 100%をめざし、周知・徹底に努めて頂きたい。【留意点】 ・本学の内部質保証システムは、「機関（組織）としての自己点検・評価」と本学の教育研究等を支える「教員個人の諸活動に対する自己点検」という 2 つの視点から構築しており、全教員が入力をする状況になれば、内部質保証の形骸化を招きかねないことについても、改めて周知すべきである。【留意点】
※【改善勧告】【努力課題】は、改善計画書の提出が必要